

徳島J.C

[徳島県]

歴史を教えて、縦軸をつながせる「現役の応援団」

(社) 徳島青年会議所は、本年で、創立以来52年を迎えます。

全国で123番目の青年会議所として、(社)大阪青年会議所のスポンサーのもと、産声を上げて以来、地域に根付いた会員のネットワークを活用して、明るい豊かな社会の創造を胸に、青年会議所運動を展開してきました。

(社)徳島青年会議所の活動エリアは、県都徳島市を中心に、現在では、30万人の人口を有する四国三郎でおなじみの吉野川を跨いだ近畿圏への四国の窓口という立地で、経済活動も近畿圏と深いつながりのある地方都市であります。

「阿波踊り」という祭り文化と四国八十八か所という癒しの文化等、歴史を連綿と受け継ぎ、地方都市としては、国内を見渡しても、有数の観光資源溢れる土地柄であり

ます。

1990年に、「全国会員大会のできるまちにしよう」と、当時のメンバーが、提唱し、一致団結して、邁進をしました。1970年に、徳島J.Cシニアクラブは、設立をされておき、シニアクラブの先輩方の大いなる後押しの下、県、市、関係諸団体の理解を得ることができ、1995年、大阪・堺での全国会員大会で、1998年の全国会員大会の主管をいただきました。これも、

偏に、当時のシニアクラブの先輩方のアドバイスや引き回しがあったればこそでありました。

1998年、念願叶い、全国会員大会を主管させていただき、当初の夢、「全国会員大会のできるまち」に1万5000人もメンバーに参加をいただき、夢の集大成である「徳島のまち」を舞台に、全国に青年会議所運動が発信できました。

以来、本年で10年がたちました。中心市街地を流れるドブ川であった新町川は、NPO法人の活躍で、清らかな水が流れる川に生まれ変わり、水際公園も整備され、夜には、LEDでライトアップされた素敵な空間へと生まれ変わりました。

当時のメンバーが、現在のシニアクラブの中心メンバーとなり、代表幹事制を敷く体制の中で、創成期の大先輩と現役に近いメンバーとの橋渡しをしていただいております。「現役の応援団」としての存在意義を大い

に高めていただいているところであります。

地方都市を取り巻く環境は、今も当然、混沌としており、過疎の波にもさらされ、かつ、高齢化も凄まじい勢いがあります。いまこそ、現役の青年会議所運動を下支えしていくシニアクラブとして応援していかなければならぬと感じております。

また、2009年4月19日には、サンピアGCCで、徳島J.Cじやがいのクラブ(シニアクラブのメンバーが中心)が進めておりました「日本じやがいのクラブ西日本大会」の開催をさせていただくことになりました。

全国会員大会以来、お越しいただく方々もいらつしやると思いますので、是非、全国会員大会後、10年のまちづくりの成果をご覧いただき、ますようにお願いいたします。

日本J.Cシニア・クラブ
徳島ブロック担当幹事 手束直胤

月度シニア交流例:



2008年度5月度シニア交流例会で挨拶する新開正美理事長



戸田稔第2代3代理事長と創成期の先輩方



現役に歴史を教える中川透歴代理事長



2008年度シニアクラブ総会風景